

## 第14回 IAU 総会開かる



▲ ブライトン市郊外にあるサセックス大学の  
会場入口

総会会場のロイヤル・パビリオンの入口。▶  
ブライトン市にある。

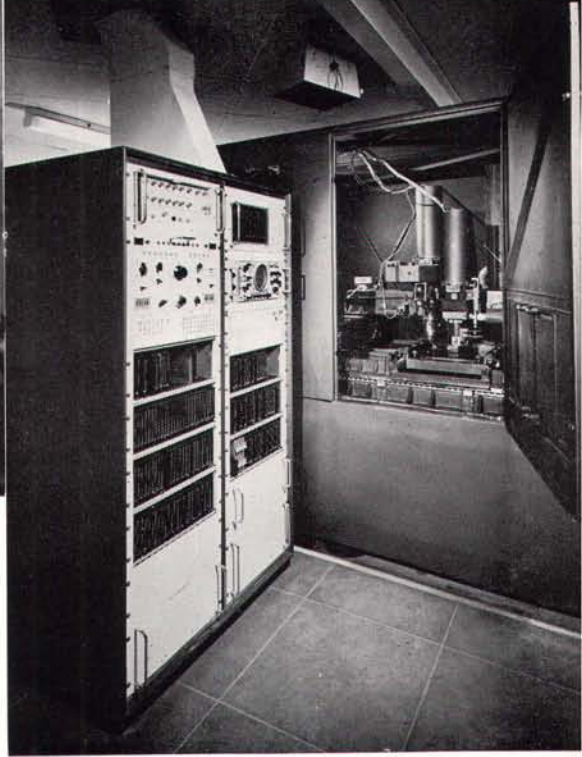


▼ 会場の受付風景、左側に古畑氏が見える





▲ 初日の総会で挨拶する IAU 会長のヘックマン教授



▲ エジンバラ天文台の乾板自動測定器 GALAXY. “光学的天体物理学での自動制御装置” についてのコロキウムが開かれたエジンバラで出席者に紹介された (古畑氏の稿参照)

▼ ロイヤル・パビリオンの外観。かつては離宮であった



▶ IAU 第 4 委員会主催の “天文常数系” コロキウム (ハイデルベルグ), ウィルキンス 第 4 委員会 (天体暦) 委員長は左から 4 人目, コワレフスキー 次期委員長は, 中央弓氏の右隣り (最後列) に写っている. (青木氏の稿参照)



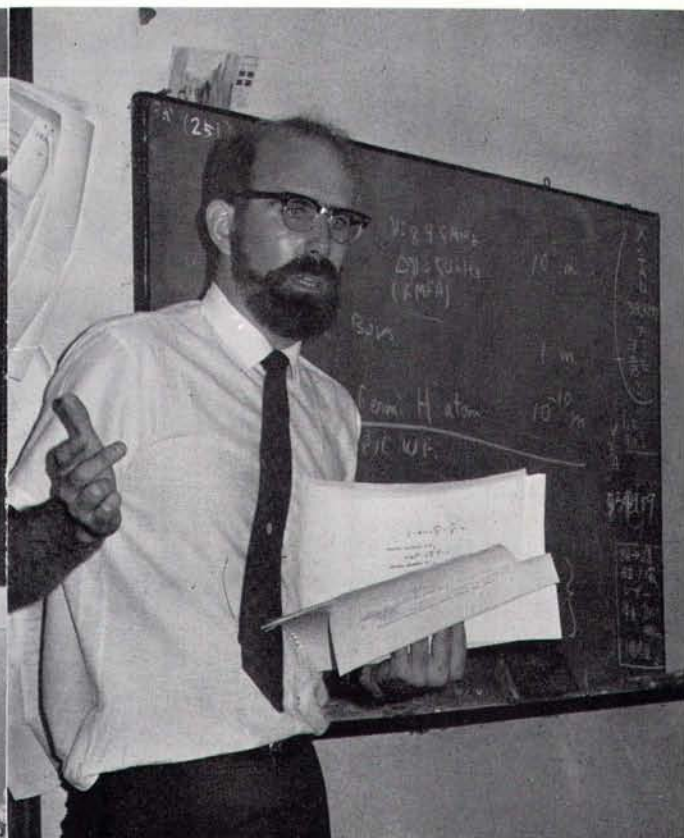
# 千客万来



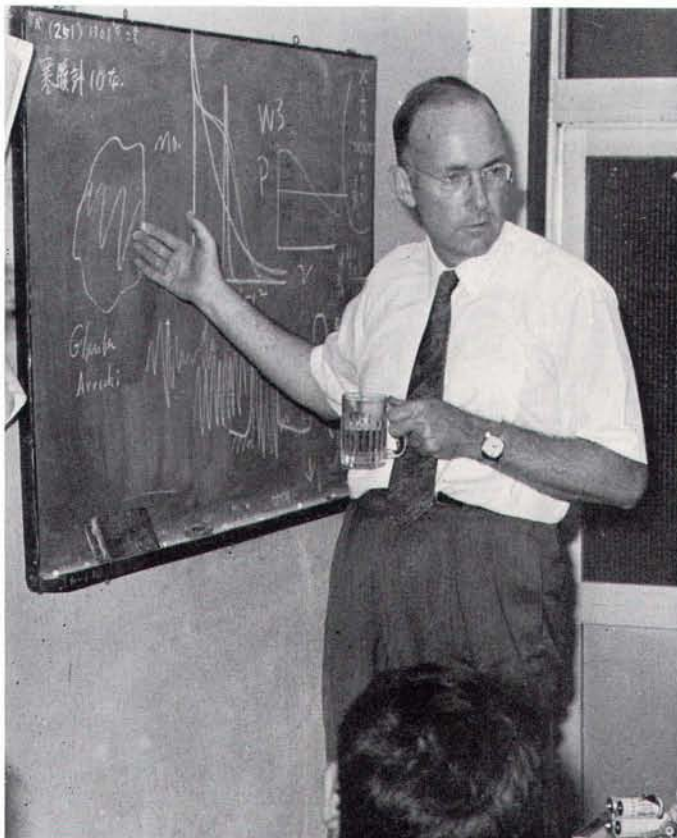
▲ メリーランド大 C. O. アレイ教授 (左側)。現在、レーザー光を利用しての月測距に指導的役割をはたしており、日本の関係者とも接触の機会をもった。写真下段のタウンズ氏やウルリッヒ氏と同様に、量子エレクトロニクス京都国際会議に出席のため来日。



▲ C. フェーレンバック氏 (左側)。フェーレンバック式対物プリズムで有名な天文学者。現在、フランス、オートプロバンス天文台長。フランス政府代表の国賓として万国博のため来日。



▲ ウルリッヒ氏。超伝導を利用した赤外検出器を作って天体観測に応用している。



▲ メーザーの発明者、C. H. タウンズ氏。1964年ノーベル賞受賞者、最近星間スペクトルの観測をしている。